

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.231

2012年8月

古川国家戦略担当大臣が医学部附属病院を視察



目次

●ニュース

古川国家戦略担当大臣が医学部附属病院を視察	3
ベトナム憲法改正調査団が本学に来訪	4
大関鶴竜関が本学に来訪	4
平成24年度名古屋大学協会総会・講演会を開催	5
名古屋大学職場説明会を開催	5
学術奨励賞授与式を挙	6
教養教育院地震防災訓練を実施	6

●学生の元気

第66回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会	7
----------------------	---

●知の先端

交尾が排卵を引き起こすしくみ	8
----------------	---

井上 直子（大学院生命農学研究科助教）

●知の未来へ

ペプチドを介して語り合う植物細胞—気孔密度を調節するペプチドホルモンの発見	10
---------------------------------------	----

近藤 竜彦（大学院生命農学研究科助教）

強い臨床ネットワークを生かした肺炎研究 ～ベストな肺炎治療を目指して～	11
-------------------------------------	----

進藤 有一郎（高等研究院特任助教）

●部局ニュース

平成24年度工学部懇話会を開催	12
駐日トーゴ共和国臨時代理大使による講演会を開催	12
言語処理に関する国際シンポジウムを開催	13
研究集会「指輪物語を語り尽くす」を開催	13
講演会「テレビは21世紀に生き残れるか」を開催	14
第2回睡眠研究会を開催	14
減災連携研究センター設立記念行事を挙	15
中国の耐震技術者育成プロジェクトチーム向けに研修を実施	15
ミクロの探検隊を開催	16
大学連携キャンパス講座を開催	16
博物館コンサートを開催	17

●名大を表敬訪問された方々

●新たに締結した学術交流協定

●構成員を対象とした研修

●新任部局長等の紹介

●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成24年6月16日～7月15日	20
---------------------------------	----

●Information

第8回名古屋大学ホームカミングデイ	23
-------------------	----

地域と大学で考える「世界のなかの日本、日本のなかの世界」を10月20日（土）に開催

概要パンフレット「名古屋大学プロフィール2012」を刊行	24
------------------------------	----

●イベントカレンダー

●ちょっと名大史

学部の誕生と草創期② — 法学部 —	28
--------------------	----

古川国家戦略担当大臣が 医学部附属病院を視察





古川元久国家戦略担当大臣が、7月8日(日)、医学部附属病院を訪れ、本学における医療イノベーションに関連した医工連携の取り組みを視察しました。

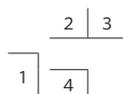
古川大臣は初めに、中根康浩経済産業大臣政務官ほか国会議員、内閣府及び経済産業省関係者12名とともに、濱口総長から本学概要について説明を受け、続いて、筒井宣政中部医療機器工業協会会長並びに臨床系及び基礎系の若手研究者4名を交えて、本学と地域との医工連携の状況、医療イノベーションへの取り組み、医学研究の将来

展望などについて議論しました。

昼食後は、松尾医学部附属病院長をはじめとした大学院医学系研究科及び医学部附属病院の所属教員から、「名大病院における医療イノベーション」、「先端医療プロジェクト」、「国際的な人材の育成」などについて説明を受けた後、先端医療・臨床研究支援センター、手術支援ロボット“ダ・ヴィンチ”、脳外科手術支援ロボット“ニューロアイメイト”、インシデントレポートシステムの見学を通じて、医療機器を実際に操作するなど医工連携による先端医療を体感し、最後に、次代を担

う国際的な医療人の育成を目的とするヤング・リーダーズ・プログラム(YLP)による留学生14名と懇談しました。

視察終了後、古川大臣からは、医療イノベーションの担い手の中心は大学病院をはじめとする臨床機関であるが、医工連携の下、「ものづくり力」が医療の革新に活かされ、将来の海外展開を見据えた国際交流が活発になれば、世界の医療を大きく変える可能性があるとの言葉がありました。



- 1 あいさつをする古川大臣
- 2 ニューロアイメイトについて説明を受ける様子
- 3 ダ・ヴィンチを操作する古川大臣
- 4 YLPの留学生との記念撮影

ベトナム憲法改正調査団が本学に来訪

ハ・フン・クオン ベトナム司法大臣をはじめとした閣僚級を含む17名のベトナム憲法改正調査団が、7月6日(金)、本学を訪れました。

ベトナムでは現在、憲法改正の議論を進めています。今回の来訪は、20年にわたってベトナムの法整備を支援してきた鮎京理事をはじめとする本学の法学研究者と対話を行



記念撮影

い、憲法改正の参考とすることを目的としたものです。当日は、法学研究者との対話のほか、ベトナムに進出している愛知県内の企業の方を対象とするベトナム法務セミナーを併せて開催しました。

クオン大臣は、憲法を改正して終わりではなく、着実に実施することが大事であると述べるとともに、長年ベトナムの法整備を支援している本学がベトナム司法省の高い信頼を得ていることを強調し、同省と本学の連携協定締結を提案しました。

本学は1990年代に森嶋昭夫本学名誉教授がベトナムの民法起草の支援を開始して以来法整備支援を続け、現在は、ハノイとホーチミンに日本法教育研究センターを設置し、ベトナムの法曹人材の育成に取り組んでいます。本学で学んだ留学生がベトナム司法省副大臣や幹部として活躍しており、ベトナムの発展に大きく貢献しています。

本学はこのほか、大学院工学研究科における航空工学分野での共同研究や人材育成、大学院医学系研究科における絨毛癌予防プロジェクトの実施、さらには研究者間の交流等、複数の研究分野でベトナムの高等教育機関との連携を強めています。

大関鶴竜関が本学に来訪

大関鶴竜関が、6月29日(金)、本学を訪れ、博物館で開催している「大モンゴル展」の見学などを行いました。

鶴竜関は大相撲7月場所を前に名古屋入りしており、父親であるマンガルジャラブ・チメド モンゴル科学技術大学電力学部長が、バトバヤル・トゥデヴ同大学副学長とともに工学部との協議のため本学に滞在中であったことから、親子での見学が実現しました。モンゴル科学技術大学は本



記念撮影

学の学術交流協定校であり、平成21年には、同大学内に名古屋大学フィールドリサーチセンターを設置しています。

当日は、初めに濱口総長を表敬訪問した後、博物館へ移動し、常設展示コーナーでモンゴル馬とDNAが近い木曾馬の骨格標本や恐竜の化石などを見学してから、総長や益川敏英特別教授らと大モンゴル展を見学しました。一般の来館者や報道関係者で会場がいっぱいとなる中、鶴竜関は東田和弘博物館准教授の説明に熱心に耳を傾けていました。

続いて館長室では、モンゴルからの留学生と交流を行いました。留学生から「名古屋場所優勝!」、「怪我をしないで早く横綱になってください」といったメッセージが書かれた色紙を手渡された鶴竜関は、「皆さんもいろいろ苦勞があるかもしれないが、何事もあきらめずに最後までがんばってください」とエールを送りました。総長の「日本に来てから、相撲をやめようと思ったことはなかったですか?」という質問には、「自分の進む道は相撲しかないといつも思っていました」と応え、益川特別教授は「来年は横綱として名大に来てください」と言葉をかけました。

最後に、留学生が同館横に組み立てたゲルの前で記念撮影をしました。今年で国交を樹立して40周年を迎える両国の友好関係を深めるイベントとなりました。

平成24年度名古屋大学協力会総会・講演会を開催

平成24年度名古屋大学協力会総会・講演会が、7月14日(土)、野依記念学術交流館において開催されました。名古屋大学協力会は、本学と産業界との産学連携を一層促進するために、平成17年7月に設立されたものです。

講演会では、「航空宇宙技術に学ぶ」をテーマとして、4件の講演があり、171名が参加しました。



講演会の様子

石川隆司工学研究科教授は「航空宇宙最新技術のトレンドおよび複合材技術」と題し、航空機開発を支えている空力、構造・材料、制御、エンジンの各分野の新技术の動向、及び新しい航空機に適用されようとしている新技术、特に先端複合材料の分野の技術動向について話しました。

川合勝義株式会社 VR テクノセンタープロジェクトコーディネータは「航空機技術の自動車産業への波及について」と題し、航空機用として開発された技術の中で、今後自動車への適用が考えられるものをプロセス別・システム別に紹介しました。

沓名宗春株式会社最新レーザー技術研究センター代表取締役は「最新レーザー加工技術」と題し、航空機用構造材のレーザー溶接、レーザー切断、レーザー穴明けのみならず、近年注目されているレーザーピーニング技術、レーザー直接造形、レーザークリーニング、レーザーフォーミング、CFRP 複合材料のレーザー加工技術に至るまで、国内外の最新レーザー加工技術を紹介しました。

山田克彦工学研究科教授は「衛星軌道制御技術の紹介」と題し、人工衛星の軌道及び姿勢の制御技術、並びに姿勢運動の高速化・高精度化の課題解決のための新しいセンサーやアクチュエータ姿勢制御の概要について説明しました。

名古屋大学職場説明会を開催

東海・北陸地区国立大学法人等職員採用試験の合格者を対象とした名古屋大学職場説明会が、6月26日(火)、理学南館大講堂及び野依記念学術交流館において開催されました。

まず、理学南館大講堂において濱口総長からあいさつがあった後、大学の概要、事務職員の役割や業務内容、今後

の採用面接の日程等について紹介がありました。

引き続き、野依記念学術交流館に会場を移し、教務・学生サービス、国際交流、企画・評価、研究協力・社会連携、財務・経理、総務・広報、病院・医療支援、施設管理(電気、機械、建築)の8ブースに分かれ、各所属の担当者による個別業務の内容の紹介が25分ごとの入替制等で行われました。

さらに、先輩の経験を伝えるコーナー、福利厚生、給与等の処遇説明コーナーが設けられ、参加者からの具体的な質問に職員が個別に対応しました。

また、学術情報サービス(図書)、教室系技術(機械、化学、物理、電子・情報)については、実際の職場に場所を移して業務説明が行われました。

当日は、約350名の参加があり、それぞれ真剣に説明を聞き、メモをとる姿が見受けられました。



業務説明の様子

学術奨励賞授与式を挙

名古屋大学学術奨励賞授与式が、7月10日(火)、豊田講堂第1会議室において挙行されました。

同賞は、学術憲章に定める「人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて、人々の幸福に貢献することを、その使命とする」という基本理念に基づき、本学の大学院博士課程後期課程に入学又は進学した特に優秀、かつ、将来有



記念撮影

望な学生に対して、その教育研究活動を奨励することを目的として設立したもので、昨年度大きく制度の見直しを図ってから、今回で2回目となります。

受賞者は、大学院博士課程後期課程に在籍する5名で、表彰状及び副賞として、学業奨励金80万円が授与されました。

式には、濱口総長をはじめ理事、研究科長、指導教員が列席し、総長からは「研究者にとって、研究成果がその時々

教養教育院地震防災訓練を実施

教養教育院地震防災訓練が、6月26日(火)、全学教育棟4階第2、第3化学実験室において実施されました。

教養教育院では、不意に発生する地震等の非常事態の際に、学生や教職員が冷静かつ適切な判断・指示を行い、避難時に安全かつ速やかに対応できるようになることを目的として、今年度は年間を通して全学教育棟における防災訓



化学実験室で教員から防災訓練の説明を聞く学生

練、避難・誘導訓練等を計画・実施することとしています。その一環として実施された今回の訓練には、教職員及び学生等約100名が参加しました。

まず、事前に配布された化学実験室用の「地震発生時対応マニュアル」に沿って、教員から、「おはしも」(おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない)の実践等、化学実験中に被災した場合の避難行動について説明がありました。続いて、教員等の指示に従い、薬品の始末、実験器具の電源停止等の安全確認後、実験室ごとに避難行動を開始し、約3分で避難を完了することができました。

教養教育院院長である山本理事から訓練終了の報告があった後、引き続き「平日に2,000名余りの学生を収容している全学教育棟においては、授業を担当している先生方及び学生の皆さんが冷静かつ適切な指示・判断を行うことが特に重要となる。日頃から対応マニュアルを確認するなど、不意に発生する地震に備えることが大切である」と訓練の講評がありました。

第66回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会

第66回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会（名阪戦）が、主に5、6月の土・日曜日に、大阪大学を当番校として開催されました。今年度は男子31種目、女子14種目を実施種目とし、大阪大学の運動施設等を会場として、熱戦が繰り広げられました。

今大会の結果は、9月に実施されるソフトボール競技を残して、男子が本学10勝・大阪大学17勝・2分けで大阪大学の勝利、女子が本学2勝・大阪大学10勝で大阪大学の勝利、総合成績では本

学12勝・大阪大学27勝・2分けで大阪大学の勝利となりました。（一部雨天等により未実施の種目あり。）

今大会の結果で本学の大会通算成績は、男子が20勝42敗4分け、女子が19勝35敗7分けとなりました（総合成績の制度が導入された第20回から今回までの総合通算成績は、本学の17勝27敗3分けです）。

なお、来年度の名阪戦は、本学が当番校となり開催される予定です。

第66回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会対戦結果表

種目	対戦結果		種目	対戦結果		種目	対戦結果	
	名大	阪大		名大	阪大		名大	阪大
アーチェリー	×	○	スキ	○	×	アーチェリー	×	○
アイスホッケー	引き分け		漕艇	×	○	弓道	○	×
アメリカンフットボール	×	○	ソフトテニス	○	×	剣道	×	○
空手道	×	○	ソフトボール	9/4,5開催		硬式テニス	×	○
弓道	×	○	体操	×	○	漕艇	×	○
剣道	×	○	卓球	×	○	ソフトテニス	×	○
男子			バスケットボール	○	×	体操	団体戦中止	
硬式テニス	×	○	バドミントン	×	○	卓球	×	○
硬式野球	雨天のため中止		バレーボール	○	×	バスケットボール	×	○
女子			ハンドボール	○	×	バドミントン	×	○
ゴルフ	○	×	フィギュアスケート	×	○	バレーボール	○	×
サッカー	○	×	ライフル射撃	○	×	フィギュアスケート	×	○
自動車競技	×	○	ラグビー	○	×	ラクロス	雨天のため中止	
柔道	○	×	ラクロス	引き分け		陸上競技	×	○
準硬式野球	×	○	陸上競技	×	○	女子成績	2勝	10勝
少林寺拳法	×	○	男子成績	10勝	17勝	総合成績	12勝	27勝
水泳	×	○						



アメリカンフットボール



ラグビー



漕艇



男子ラクロス

交尾が排卵を引き起こすしくみ

井上 直子 大学院生命農学研究科助教

生物において「生殖」は、子孫をつくり種を保存するための重要な機能です。ヒトを含む哺乳動物は、雌の卵巣において作り出される卵子と雄の精巣で作られる精子が会い、受精することによってはじめて次世代の子孫が生まれます。卵巣で作られた卵子が放出されることを「排卵」とよび、体内の様々なホルモンが働くことによってはじめて排卵が成立します。

哺乳類には自然排卵動物と交尾排卵動物が存在し、それぞれ異なる排卵様式を示します。マウスやラット、ウシ、ブタ、ヒトなどの自然排卵動物は、性成熟を迎えると周期的に排卵するようになります。一方、unks (ジャコウネズミ) やウサギ、ネコなどの交尾排卵動物は、周期的に排卵することはなく、交尾した場合のみ、その刺激によって排卵が引き起こされます。交尾によって、

雌の膣や子宮頸管に与えられた刺激は脳に伝わり、排卵中枢を活性化すると考えられていましたが、交尾刺激が雌の脳内でどのようなニューロンを活性化させるかといった詳細なメカニズムは不明でした。

哺乳類において排卵は、下垂体から分泌される黄体形成ホルモン (LH) の大量放出 (LH サージ) によって誘起されます。LH サージは、脳内の視床下部にある性腺刺激ホルモン放出ホルモン (GnRH) ニューロンからの GnRH の大量放出によって刺激されます。自然排卵動物においては、この GnRH および LH の大量分泌は、排卵間近の卵胞から血中に分泌される女性ホルモン (エストロゲン) が引き金となって起こることが知られています。近年 GnRH ニューロンをさらに上位から制御する因子として、キスペプチンニューロンが注目されています (図1)。今回私たちのグループは、交尾刺激がキスペプチンニューロンを活性化することによって排卵を誘起することを、交尾排卵動物であるunks

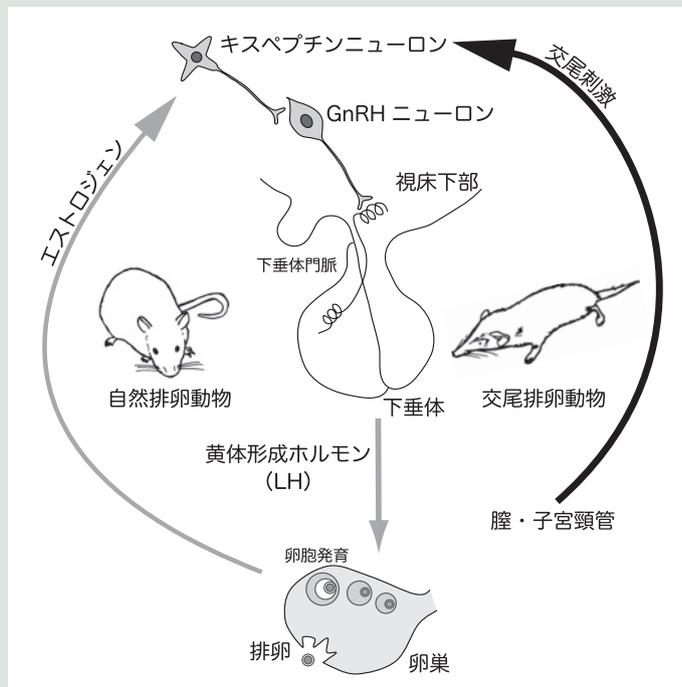


図1 哺乳動物における排卵のしくみ
自然排卵動物では、視床下部からの GnRH 分泌、下垂体からの LH 分泌により、卵巣において卵胞発育が促進される。十分に発育した卵胞から分泌される女性ホルモン (エストロゲン) によって、GnRH/LH の大量分泌 (サージ) が誘起され、これによって排卵がおこる。交尾排卵動物では、膣・子宮頸管への交尾刺激がキスペプチンニューロンを活性化し、GnRH 分泌を介して排卵が誘起される。



図2 スンクス (ジャコウネズミ)
食虫目に属するモデル動物。子どもは離乳(約3週間)するまで、母親の後を連なって歩くキャラバン行動を示す。

(図2) を用いて明らかにしました [1]。

本研究では、スンクスのキスペプチンをコードする Kiss1 遺伝子ならびにキスペプチンの受容体である Gpr54 遺伝子が脳内の視床下部に発現することを明らかにしました。また Kiss1 遺伝子が脳内の2つの部位、すなわち視索前野と弓状核と呼ばれる神経核に局在していることを明らかにしました。また交尾刺激によって、雌の脳におけるキスペプチンニューロンが活性化されるかどうかを、活性化の指標である cFos タンパクの発現によって検討したところ、視索前野という領域に存在するキスペプチンニューロンのみが活性化されていることを発見しました(図3)。また、合成キスペプチンを雌のスンクスに投与すると、交尾刺激がなくても排卵を引き起こすことができました。さらに GnRH の拮抗薬を合成キスペプチンと同時に投与すると、キスペプチン投与による排卵が阻害されることが分かりました。以上の結果から、スンクスでは交尾刺激が視索前野のキス

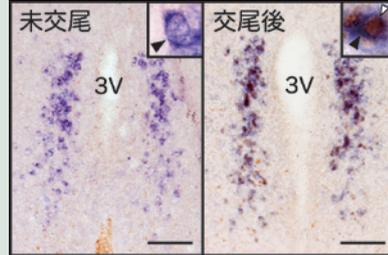


図3 スンクスの視索前野における Kiss1 発現と cFos 発現
スンクスに交尾刺激を与えると、Kiss1 発現細胞(紫、黒矢頭)に神経の活性化の指標である cFos タンパク(茶、白矢頭)の発現が引き起こされる。

ペプチンニューロンを活性化し、GnRH の放出を介して排卵を引き起こしていることが明らかとなりました。本研究によって、交尾排卵動物では初めて、キスペプチンの役割を明らかにすることができ、この成果は、Faculty of 1000 (医学生物学分野での特に優れた論文が推薦される評価システム)にも選ばれました。

スンクスは、食虫目に属しヒトの祖先に近い種であると考えられています。驚くべきことにヒトでも性交による刺激が排卵を引き起こすことが報告されており、交尾排卵はすべての哺乳類において、もともと備わっているメカニズムであると考えられています。私たちは、スンクスの排卵メカニズムを明らかにすることが、すべての哺乳類の排卵メカニズムの解明につながり、近年問題となっている家畜やヒトの排卵障害による不妊の治療法開発に役立つことを期待してさらなる研究をすすめています。

[1] N, Inoue *et al.*, *Proc Natl Acad Sci U S A.* 108, 17527–17532 (2011)

2000年名古屋大学農学部卒業、2002年京都大学大学院農学研究科修士課程修了、2004年京都大学大学院農学研究科博士後期課程中退後、名古屋大学大学院生命農学研究科助手を経て2007年より名古屋大学大学院生命農学研究科助教。農学博士。
趣味 旅行

いとう えな おこ



近藤 竜彦
大学院生命農学研究科助教

ペプチドを介して語り合う植物細胞—気孔密度を調節するペプチドホルモンの発見

気孔は植物の表皮上に形成される向かい合った一対の孔辺細胞からなる組織で、植物体が光合成、呼吸、蒸散を行う際の調節弁の役割を果たしています。孔辺細胞は、天候や日照などの短期的な環境変化に反応して自らの浸透圧を調節することにより、速やかに気孔を開閉して適応します。一方で季節変化などの長期的な変化に対して、植物は新しく形成される葉の気孔密度を変化させることで適応することが知られています。

私たちの研究グループは、気孔密度を上昇させるペプチドホルモンとして stomagen を発見しました（図1）。stomagen は分子内に3対のジス

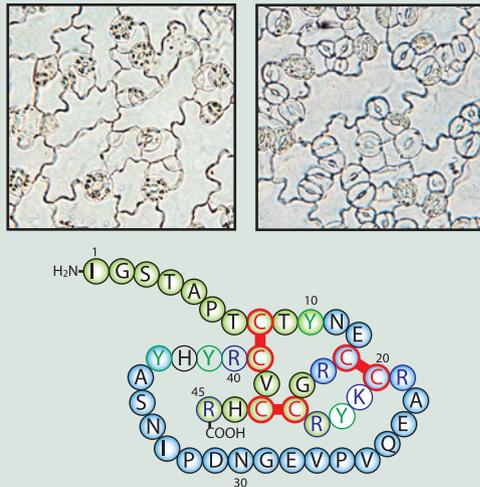


図1 stomagen 処理した表皮（右上）では、野生型株（左上）に比べて気孔密度が大きく上昇する。下は stomagen の化学構造。

ルフィド結合を持つ45アミノ酸からなるペプチドで、気孔が形成される表皮ではなくその内側の葉肉細胞で生産されることから、葉肉細胞から表皮に移動して作用するホルモンであると考えられます。

シロイヌナズナのゲノム上には、stomagen と似たペプチドをコードした遺伝子が他に10個存在しており、EPF ファミリーと呼ばれています。その中でも EPF1 と EPF2 は表皮上の気孔になる運命にある気孔前駆細胞で発現し、stomagen とは逆に気孔形成を阻害することがわかっており、これらの因子の働きにより、表皮上では気孔が隣接せず最低でも一つの細胞を挟むように形成されます（図2）。stomagen は何らかの形でこの表皮のパターン形成システムに干渉し、気孔になる運命にある細胞を増やすことで気孔密度を増加させると考えられ、その詳細な機構の解明が今後の課題です。シロイヌナズナの表皮細胞と葉肉細胞は、このように活性の異なる複数のペプチドホルモンをまるで言葉の様に使って互いに情報を交換しながら、環境に適した気孔密度になるように美しい表皮パターンを形成していることが徐々に明らかになってきています。

EPF ファミリーは高等植物で広く保存されており、他の植物でも類似の機構によって気孔形成が調節されていると予想されます。将来的に、stomagen や EPF による気孔密度の調節機構の全貌が明らかになれば、例えば気孔密度を低下させて蒸散を抑え乾燥耐性を付与した植物や光合成能の高い植物などの開発が可能になることが期待されます。

EPFs による表皮パターン形成の調節

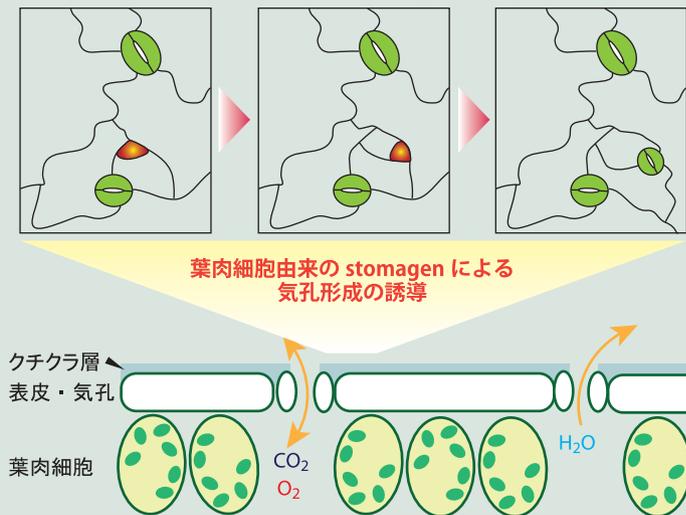


図2 表皮上で気孔が形成される仕組み(上)。不等分裂によって生じた気孔前駆細胞 (meristemoid、図中の赤い細胞) は、数回の不等分裂の後に気孔へと分化する。この過程で主に EPF1 を分泌することで周囲の細胞が気孔に分化することを抑制する。表皮のすぐ内側にある葉肉細胞 (下図) は、stomagen を分泌することで上の気孔分化過程に干渉し、気孔密度を増加させる。

強い臨床ネットワークを生かした肺炎研究

ベストな肺炎治療を目指して

高等研究院特任助教
進藤 有一郎

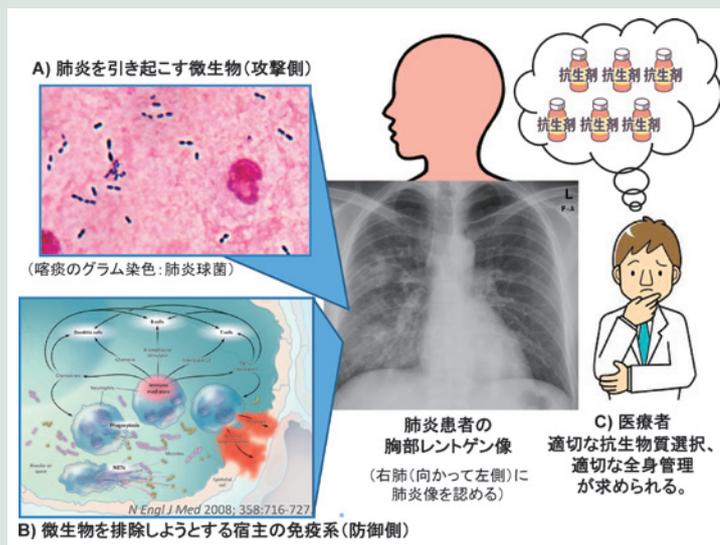


図1 肺炎の病態と医療者側のアプローチ

改善しない患者病態を特定することで、宿主をサポートする治療戦略を考案するための道筋を作ることも考えています。

我々は日常の忙しい診療業務をしながら研究も進めたいかねばなりません。現行の研究では電子カルテなどの医療ITを利用した多機能電子データベースシステム構築にも取り組んでいます。これは研究参加する医師、検査技師、臨床研究コーディネーターの多業種のスタッフがリアルタイムにデータベースにアプローチでき、また医師は必要な項目を入力すれば推奨抗生物質が表示されるガイド機能付きシステムです。医療のIT化を活用し、効率的に医学研究を行うシステムを目指しています。

現在の研究では、1年弱の期間で約1600症例の臨床データと約1200株の細菌菌株を集積できました。短期間で多数のデータを集積できるのは、名古屋大学とその関連病院に強い臨床ネットワークがあるためと考えます。将来的には、図1のA～Cの多面的研究が成り立つように、名古屋の「地の利」を生かした臨床研究に基礎研究を組み合わせ、複数の研究者が力を合わせてエビデンスを創出し、社会貢献できるチームになることを目標に研究を進めています。

Shindo Y, Hasegawa Y. Healthcare-Associated Pneumonia among Hospitalized Patients. In: Esquinas A, ed. Applied Technologies in Pulmonary Medicine. Basel: Karger Medical and Scientific Publishers, 2011; 172-177 より改変。

〈説明〉

HCAPは医療ケア(最近の入院歴がある、施設入所、透析中など)との関わりがある患者さんに発症した肺炎です。HCAP領域では、報告により疫学データが異なり、患者背景に多様性があるため治療戦略は現在国際的にも議論中である。

肺炎は罹患患者数が多く、また死亡者数も多い重要な疾患です。医療の進歩とともに、肺炎の疾患像は変貌してきており、「効果的かつ効率的な治療をどのようにするべきか?」という課題は、永遠の研究テーマになっています。

図1のように肺炎の病態は、微生物(攻撃側)と宿主(防御側)の相互作用によって成り立ち、医療者側は現在数多く存在する抗生物質を上手に使い分けると同時に、宿主に対しても適切に治療することが求められています。肺炎治療は、死亡率や耐性菌検出率の違いから市中肺炎(CAP)と院内肺炎(HAP)の2つに分けて

考えられてきましたが、近年、医療ケア関連肺炎(HCAP)と呼ばれるCAPとHAPの中間に位置する新しい肺炎の治療概念が提唱されています。我々は過去の研究において、HCAPでは市中発症にも関わらず通常CAPで使用される抗生物質では対応できない耐性菌の検出率が高いことを明らかにしました。しかし、各国によりHCAPの疫学データの位置づけは異なり(図2)、その治療戦略をどのようにするべきか、現在国際的にも議論されています。

肺炎診療では診断時に原因微生物が未判明の状態であることが大半ですが、ただちに治療を開始しなければなりません。現在我々は、過去の研究を発展させ、「より適切な肺炎初期治療を可能にするための診断時の患者評価・分類方法の構築」をテーマに、前向き多施設共同研究を名古屋大学とその関連病院で行っています。この研究では医師が適切な治療法を決定できる方法を提案していくとともに、治療成功、失敗に関わる微生物側の分子疫学解析を基礎医学教室と共同で行っています。また抗生物質だけの治療では状態が

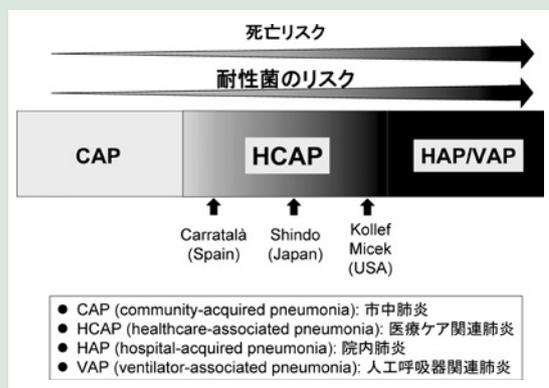
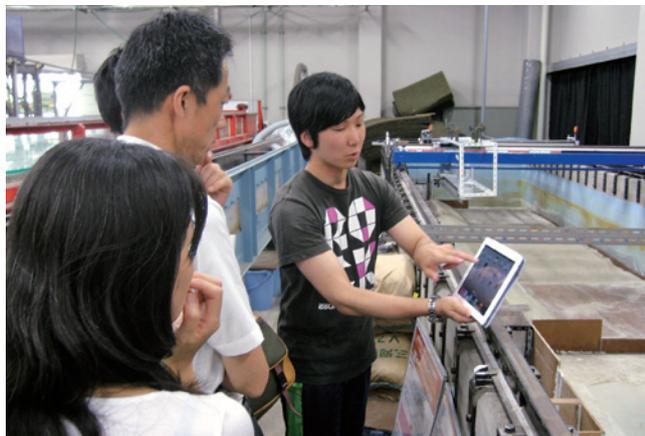


図2 治療決定の際に必要な肺炎分類

平成24年度工学部懇話会を開催

●工学部

工学部は、7月4日(水)、IB電子情報館大講義室において、平成24年度工学部懇話会を開催しました。同懇話会は、高等学校の進路指導担当教諭を対象に、理系への進学を考える高校生に学部選択の判断材料を提供することを目的として毎年この時期に開催しているもので、今回は「工学部が目指す魅力ある教育・研究」をテーマとし、愛知、



研究室見学の様子

岐阜、三重の東海3県下を中心に43の高等学校から46名の教諭が参加しました。

開催に先立ち、鈴置工学部長からあいさつと趣旨説明があった後、工学部の各学科長等から各学科の教育研究内容について説明があり、大学院情報科学研究科博士課程前期課程1年の坂井利光さんから「バグのないソフトウェアの実現に向けて」、工学部4年の建部順平さんから「大学での可能性」と題した講演が行われました。

講演に続いて、質疑応答及び自由討論が行われ、工学部の研究内容、入試や就職状況等について、高校教諭と工学部教員との忌憚のない意見交換が行われました。

その後、参加した高校教諭は、13の班に分かれて各研究室の見学を行いました。見学先の研究室では、教員や大学院生が、現在進めている研究内容を分かりやすく紹介しました。大学院生との対話を通じて、学生が成長する様子に直に接してもらうことにより、工学部における教育・研究活動の魅力を高校教諭に伝えるよい機会となりました。

駐日トーゴ共和国臨時代理大使による講演会を開催

●大学院国際開発研究科

大学院国際開発研究科は、7月12日(木)、アレワビア・デラリ・アクレス・ボジョナ駐日トーゴ共和国臨時代理大使による講演会を開催しました。同講演会は、日本トーゴ友好協会からの紹介を受け、実現しました。

ボジョナ臨時代理大使は「トーゴ：概要及び日本との二国間関係」と題し、主にトーゴの文化、産業、教育につい



講演するボジョナ臨時代理大使

て説明しました。まず、「トーゴは国内に45もの民族が共存する多様性に富む国だが、共通語をフランス語と現地語1つの2つとしていることで国民には一体感がある」との話があり、文化面ではエペエペ (EPE EKPE) というブドゥー教の伝統的な祭り、エヴァラ (EVALA) という男性の祭りについて、産業面ではカカオ、綿花、リン鉱石を輸出していること、またアフリカの中でトップレベルの識字率を誇ることが紹介されました。講演会場の中を歩きながら話すボジョナ臨時代理大使の説明に、聴講者は興味深く聞き入り、質疑応答では、終了予定時刻を超過するほど活発な意見交換が行われました。

トーゴ共和国は1960年に独立した西アフリカの国で、国土は南北に細く、南はインド洋に面し、西はガーナ、東はベナンに隣接しています。面積は日本の6分の1程度、人口は約660万人で、東日本大震災の直後、大統領が現地視察をするなど日本との繋がりも深い国です。

ボジョナ臨時代理大使は、2009年に大使館の設立のために来日し、2010年に初代大使に任命されました。現在30歳と、在日本の大使の中で最年少です。

言語処理に関する国際シンポジウムを開催

●大学院国際言語文化研究科

大学院国際言語文化研究科は、6月29日(金)、全学教育棟において、言語処理に関する国際シンポジウムを開催しました。これは、本学の「国際的に活躍する心理言語学研究者養成プロジェクト」の支援により開催されたもので、心理言語学の分野で世界的に著名なニルス・シラー ライデン大学教授 (オランダ)、コリン・フィリップス メリー



フィリップス教授による講演の様子

ランド大学教授 (米国) の両氏を招へいしました。

シラー教授は脳神経言語学の専門家で、特に、言語産出時の統語、形態、及び音韻処理過程に関する実験研究で数多くの業績をあげている研究者です。さらに脳に障害を持つ患者や法音声学に関連した発話産出、言語理解の過程の解明にも取り組んでいます。一方、フィリップス教授は、理論言語学、言語処理、言語習得及び脳神経言語学に関する学際的研究を行っています。言語のモデルを、高次理論モデルから脳生理学のレベルに統合することを目指して、種々の実験研究に精力的に取り組んでいます。今回のシンポジウムでは、ヨーロッパとアメリカのそれぞれの潮流におけるアプローチを比較しながら議論することを目指して、両氏によりそれぞれ2件ずつ、合計4件の講演が行われました。

当日は、学内の教職員・大学院生のみならず、日本各地から、さらにはオーストラリア、アメリカ、カナダ、韓国と、世界各国から心理言語学を専門とする研究者が集まり、両氏の講演に耳を傾けました。

最新の実験結果の報告を踏まえて、聴衆を含め活発な議論が展開されました。

研究集会「指輪物語を語り尽くす」を開催

●大学院国際言語文化研究科

大学院国際言語文化研究科は、6月30日(土)、全学教育棟において、研究集会「指輪物語を語り尽くす」を開催しました。同会では、オックスフォード大学教授であった故J.R.R. トールキン氏が、古英語・中英語や古ノルド語など自分の学問分野の知識を駆使して創り出した「指輪物語」を、言語及び文学的な側面から探りました。



シンポジウムの様子

午前には、水井雅子金沢学院大学教授が「トールキンから指輪物語を考える」と題し、トールキンが同作品をファンタジーという形式で書くことがイングランドの神話を創作することになると考えた経緯について講演しました。

午後は、森野聡子静岡大学教授の司会のもと、「指輪物語を語る」と題してシンポジウムを行いました。辺見葉子慶應義塾大学教授が「ケルトの観点から指輪物語を語る」と題し、シンダリンとクェンヤが指輪物語の最古の言語層として存在している事実からケルトの影響について解説し、伊藤 盡信州大学准教授が「北欧神話・伝説の視点から指輪物語を読む」と題し、前作「ホビットの冒険」のドワーフたちの名前が古北欧語から取られたことにより指輪物語が受けた影響について述べました。また、渡辺美樹国際言語文化研究科准教授が「物語論の視点から指輪物語を語る」と題し、トールキンの研究対象であった叙事詩の物語上の特性が指輪物語の構造にどのように反映されているかについて、高橋 勇慶應義塾大学准教授が「ファンタジーの起源としてのトールキン」と題し、指輪物語を祖型とした「異世界創造物語」という視点を生み出したのはアメリカの評論家リン・カーターであったと示唆し、ファンタジーというジャンルの歴史について論じました。

講演会「テレビは21世紀に生き残れるか」を開催

●大学院国際言語文化研究科

大学院国際言語文化研究科メディアプロフェSSIONALコースは、7月13日(金)、文系総合館カンファレンスホールにおいて、講演会「テレビは21世紀に生き残れるか」を開催しました。これは、同コースの進学説明会における企画として開催されたものです。

講演会では、初めに司会の河村雅隆国際言語文化研究科



講演する佐藤局長

教授が、若者のテレビ離れや視聴態度の変化について、各種調査データを基に分析した後、佐藤幹夫 NHK 名古屋放送局長が、放送機関は今のようにして視聴者をつなぎ止め、メディアとしての責任を果たそうとしているかについて論じました。佐藤局長の「昨年の大震災の後、若者などの間に『人と人との間をつなぐもの』を求める動きが出始めている。放送はそうした機運を支え、人々をつなぐ存在としてその使命を果たしていく。それが放送を21世紀に生かし続けることにつながる」という話に、多くの出席者が感銘を受けた様子でした。

講演会の後には、コース・教員紹介等が行われました。学内外から会場につめかけた学部生や社会人は、9月に行われる大学院の入試や各コースの内容について、教員や先輩の大学院生たちと熱のこもった話し合いを繰り広げました。

第2回睡眠研究会を開催

●環境医学研究所

環境医学研究所は、7月5日(木)、6日(金)の両日、シンポジオンホールにおいて、睡眠研究会準備委員会との共催で、第2回睡眠研究会を開催しました。

我々は人生の3分の1もの時間を睡眠に費やしているものの、未だにそのメカニズムは十分解明されていません。同研究会は、睡眠の生理的意義や、睡眠覚醒を調節する機

構について統合的に解明することを目指しており、2回目となる今回は、武田科学振興財団の後援を受けて開催しました。これまで睡眠を中心に研究していた研究者のみならず、睡眠研究に興味を持っている研究者、これからの睡眠研究の展開において重要な手がかりを得ている研究者、及び新しい解析技術を開発している研究者らが一堂に会して技術と知識を融合させ、新たな睡眠研究を提案することによって、停滞する睡眠研究のブレークスルーを目指しています。

当日は、82名もの参加者が集まり、準備委員によって選出された各分野の最先端で活躍する16名の研究者が講演を行いました。講演では、睡眠研究の基礎から最新の脳深部イメージング法、生物リズム研究など多岐に渡る発表があり、質疑応答時間を毎回超過するほど、大変活発に議論が行われました。

講演後に開かれた懇親会でも積極的に情報交換が行われ、睡眠研究者間のネットワークの構築や情報共有といった側面においても大変有意義な会となりました。



記念撮影

減災連携研究センター設立記念行事を挙行

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、6月22日(金)、野依記念学術交流館において、減災連携研究センター設立記念行事を挙行しました。同行事には、東海地域のみならず、様々な地域から多数の関係者・有識者が参加しました。

記念シンポジウムでは、まず同センターの紹介があり、続いて、日本地震学会前会長である平原和朗京都大学教授



記念式典の様子

による記念講演「大地動乱・巨大地震の時代を迎えて」が行われました。平原教授は、東日本大震災が地震学的見地からどのような地震であったかを解説し、これから懸念される巨大地震に関する所見と、同センターへの期待を述べました。次いで、日本建築学会会長である和田 章東京工業大学名誉教授による記念講演「極めて稀ではあるが、非常に甚大な災害を生む可能性のある自然の猛威への対処」が行われ、巨大地震の再現期間と人間の一生、建築物の一般的寿命とのギャップを前提として対策方針を模索する必要性など、同センターが挑戦すべき新たな課題についての示唆を含んだ話がありました。

記念式典では、福和減災連携研究センター長の式辞にはじまり、濱口総長のあいさつを経て、寺田博幹文部科学省研究開発局地震・防災研究課長、足立敏之国土交通省中部地方整備局局長、星野広美愛知県建設部建築担当技監、菅原章文中部経済連合会常務理事から来賓祝辞がありました。

記念交流会では、産官学民の各分野を代表する約230名の参加者が一堂に会して問題意識を共有し、減災戦略の方針や有効な連携のありかた方について活発な議論が行われました。

中国の耐震技術者育成プロジェクトチーム向けに研修を実施

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、7月13日(金)に、中国の耐震技術者育成プロジェクトチームの訪問を受け、地域防災力向上のための技術開発や普及啓発の研修を行いました。

中国では、四川大地震の被害を受け耐震建築物の普及が急務で、国をあげて数十万人の建築構造技術者の能力向上を目指しています。同プロジェクトは、選抜された技術者



研修の様子

が日本で高度な研修を受け、中国に戻って多数の技術者の育成を担うもので、平成20年度に開始し、今年が最終回となりました。今回は、日本側の受け入れ元で、同センター客員教授でもある齊藤大樹独立行政法人建築研究所上席研究員の引率のもと、日本で研修中の約20名が本学を訪問しました。

当日は、まず、免震レトロフィットが行われた愛知県庁や特徴的な形体の超高層建物であるスパイラルタワー等を訪問し、最先端の耐震化技術に関する研修が行われました。その後、環境総合館で、東日本大震災の概要や地震災害被害軽減のための実践活動に関する講演、様々な機材・教材等に関する実演・体験が行われました。

また、7月17日(火)、18日(水)には、ブラジル・ミナスジェライス州より防災局職員3名、及び小林千晃独立行政法人国際協力機構ブラジル事務所次長補佐の訪問を受け、東海地域の防災・減災推進活動や、同センターの概要、設立の経緯について紹介や意見交換が行われました。

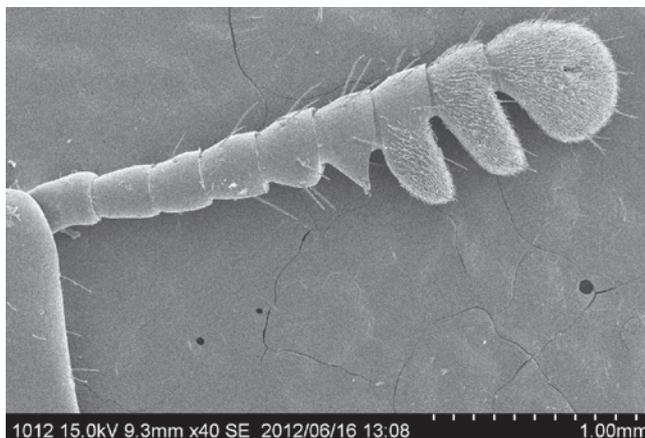
同センターは、産官学民の連携や地域貢献、国際貢献等をミッションとしており、今回の活動もその一環として行われました。海外からの参加者は、センターの活動に触れ、収穫を得ることができ、とても満足したようでした。

ミクロの探検隊を開催

●博物館

博物館は、6月16日(土)、ミクロの探検隊「観察園のムシを電子顕微鏡で見よう」を開催しました。

ミクロの探検隊は、博物館が平成19年より年に5回から7回、毎回内容を変えながら開催している体験型次世代教育です。今年度は本学の地域貢献事業として、大学院医学系研究科附属医学教育研究支援センター分析部門、名古屋



参加者が撮影したネトクワガタの触角

昆虫同好会、株式会社日立ハイテクノロジーズの協力を得て行っています。今回は、抽選で選ばれた17名が参加者しました。

当日はあいにくの雨で、野外観察園での昆虫採集を行うことができませんでしたが、代わりに、あらかじめ用意した小さな昆虫標本を観察し、参加者は、触角や脚も分類の大きな基準になることを知りました。また光学顕微鏡を使ってスケッチを行い、普段気づかない細かな部分まで注意深く観察するとともに、電子顕微鏡を使うことで、普段目にしないミクロの世界に引き込まれていました。

最後に、各自が撮影した電子顕微鏡写真の前で思い思いに発表を行いました。

アンケートには「楽しかった。今度は自分で採集した虫を観察したい」など、次回につながる積極的な意見が見られました。

大学連携キャンパス講座を開催

●博物館

博物館では、5月26日(土)、6月2日(土)、16日(土)、23日(土)、30日(土)、同館講義室において、公益財団法人名古屋産業科学研究所との共催で、名古屋市生涯学習推進センター大学連携キャンパス講座「達人と話そうーヒトとからだー」を開催しました。

今年で3年目となる同講座は、毎回多くの応募があり、



山根名誉教授による講演の様子

今回は、応募者213名から抽選で選ばれた100名が受講しました。

5月26日(土)は、門脇誠二博物館助教による「進化から見るヒトのからだ」、6月2日(土)は、前岐阜薬科大学学長である永井博式岐阜保健短期大学学長による「笑って免疫力アップ!」、16日(土)は、山根 隆本学名誉教授による「細胞が行うタンパク質の新陳代謝と病気」、23日(土)は、八田一郎本学名誉教授による「みずみずしい皮膚の源は」、30日(土)は、毛利佳年雄本学名誉教授による「健康に役立つ磁気」と題する講演がそれぞれ行われました。このうち、永井学長、山根名誉教授、八田名誉教授、毛利名誉教授は、名古屋産業科学研究所上席研究員です。

「からだ」と言う最も身近なテーマのためか、今回は特に盛会で、時間切れとなるほど質問も熱心に続きました。

博物館コンサートを開催

●博物館

博物館は、7月14日(土)、博物館コンサート「音楽で学ぶモンゴルの歴史」を開催しました。これは博物館で8月31日(金)まで開催している「大モンゴル展」に関連して、本学の地域貢献事業として行われたものです。

115名の聴衆を前に、鈴木美香さんによるピアノと、小寺里枝さんによるヴァイオリンで、「ダットン人の踊り」

や「ヘンテイの山々」など、モンゴルに関係がある曲を中心とした全9曲が演奏されました。なかには、モンゴルの伝統楽器である馬頭琴の曲をアレンジしたものもあり、草原で演奏しているような趣を感じさせていました。

次回は、12月15日(土)14時より、「クリスマスコンサート インカからの贈り物」を予定しています。



コンサートの様子



会場の様子

名大を表敬訪問された方々 [平成24年4月16日～7月15日]

日付	国/地域	訪問者	目的
4月18日	フランス	パリ国立高等鉱業学校よりピエール・バラッド協定・広報担当	学術交流に関する意見交換
4月20日	ベトナム	FPT 大学よりグエン・ヴィエ・タン経済学部長他21名	大学運営に関する意見交換
4月25日	米国	ミネソタ大学海外学習センターよりキム・ヒンドゥブジョーゲンプログラムディレクター他2名	表敬あいさつ及び学術交流、AC21に関する意見交換
5月14日	フランス	グルノーブル大学群よりグルノーブル第2大学ジャック・フォンタネル国際担当副学長他7名	表敬あいさつ及び学術交流に関する意見交換
5月17日	ニュージーランド	オークランド大学附属語学学校よりキルスティン・マクドナルド ビジネスディベロップメントマネジャー	学術交流に関する意見交換
5月17日	中国	復旦大学より陳立民副学長、李双龍新聞学部副学部長及び俞純麟国際交流室チーフ	表敬あいさつ及び学術交流に関する意見交換
5月24日	中国	西南大学より李航国際協力交流室副課長他2名	学術交流に関する意見交換
6月27日	ベトナム	ホーチミン市法科大学よりマイ・ホン・クイ学長及びご令嬢	表敬あいさつ及び学術交流に関する意見交換
6月29日	モンゴル	大関鶴竜関、モンゴル科学技術大学バトバヤル・トゥデヴ副学長及びモンゴル科学技術大学マンガルジャラブ・チメド電力学部長	表敬あいさつ、学術交流に関する意見交換及び第16回名古屋大学博物館特別展「大モンゴル展」見学
7月2日	オーストラリア	オーストラリア政府国際教育機構よりクリストファー・ジェームス・ローソン リサーチマネージャー/ディレクター代理	本学におけるオーストラリアとの国際交流に関する調査及び意見交換
7月6日	ベトナム	ベトナム政府よりハ・フン・クオン司法大臣を含む憲法改正調査団	ベトナム憲法改正に係る日本国憲法調査のための憲法研究者との意見交換及び企業との懇談
7月10日	マレーシア	ユナイテッド・スター株式会社 (UMW トヨタモーターグループ・マレーシア) よりマーチン・S・H・ウィー博士	表敬あいさつ及び工学部・工学研究科サマープログラム (夏期集中講座) における特別講義実施のため
7月12日	トーゴ	駐日トーゴ共和国大使館よりアレクサンドラ・デラリ・アクレス・ボジョナ臨時代理大使	表敬あいさつ及び本学における講演会実施のため

新たに締結した学術交流協定 [平成24年4月16日～7月15日]

大学間学術交流協定

締結日	地域/国名	大学/研究機関名
5月8日	ドイツ	アーヘン工科大学
5月5日	米国	カリフォルニア大学デービス校

部局間学術交流協定

締結日	地域/国名	大学/研究機関名	部局名
5月29日	英国	マンチェスター大学環境・開発研究科	大学院環境学研究科及び大学院工学研究科
6月18日	中国	厦門大学法学院	大学院法学研究科
6月28日	英国	ウォリック大学	グリーンモビリティ連携研究センター
7月5日	スウェーデン	SAFER - チャルマース工科大学車両及び交通安全に関するセンター	グリーンモビリティ連携研究センター
7月7日	フランス	ベルフォール・モンベリヤール工科大学	グリーンモビリティ連携研究センター

構成員を対象とした研修 [平成24年4月16日～7月15日]

実施日	研修名	目的	参加人数
4月10日～20日	平成24年度新規採用職員研修	本学新規採用職員に対し、法人職員としての心構えを身につけると共に、社会人として必要な業務遂行上の基礎知識及び能力を養成する。	36名
4月27日	「学習させる大学」における学生の正課外活動招聘セミナー	大学は、正課内外の活動を視野にいれ、それらをいかにデザインし、どう展開すべきか、これからのあるべき姿を共に考える。	20名
5月8日	クリティカルシンキングの技法	専門家として自立する日に備えて、さまざまな場面で活用できる「トランスフェアラブル・スキル」の獲得を支援する。	31名
5月9日	ハラスメント防止研修会及び新任教員説明会	工学研究科の新任教員を対象に、教育体制及び教育研究支援体制等の基礎的な知識の取得を目的に実施する。併せて、ハラスメント防止についての研修を行う。	ハラスメント防止研修会 19名 新任教員説明会 12名
5月17日～18日	研究理論ワークショップ	専門家として自立する日に備えて、さまざまな場面で活用できる「トランスフェアラブル・スキル」の獲得を支援する。	9名
5月18日	学生の学習ニーズの多様化に対応した教育・学修支援	ユニバーサル段階における大学の教育・学修支援にあたり、特に「職業的レリバンス」の向上を求める声強いが、本セミナーではむしろ「市民的レリバンス」を高めることに着目し考察する。	23名
5月23日～24日	平成24年度東海地区国立大学法人等職員基礎研修	東海地区国立大学法人等機関での勤務経験が半年以上2年未満の者に対し、法人職員の心構え等を改めて習得させ、必要な業務遂行上の基礎知識及び能力を養成する。	90名
5月29日	Writing is thinking!	専門家として自立する日に備えて、さまざまな場面で活用できる「トランスフェアラブル・スキル」の獲得を支援する。	28名
6月4日～7日	平成24年度（前期）医療安全・院内感染対策・医薬品安全使用研修	医療法により病院管理者に定期開催が義務付けられている、従業者に対する研修であり、業務遂行上の技能やチームの一員としての意識向上を図る。	約2,500名
6月8日	科学技術とは何か	専門家として自立する日に備えて、さまざまな場面で活用できる「トランスフェアラブル・スキル」の獲得を支援する。	14名
6月13日	科学技術と社会	専門家として自立する日に備えて、さまざまな場面で活用できる「トランスフェアラブル・スキル」の獲得を支援する。	12名
6月13日	農学部新任事務職員研修	生命農学研究科附属の3フィールド科学教育研究センターを訪れ、業務及び研究を直接見聞することで、研究科の幅広く特殊な業務に対する理解を深める。	9名
6月14日～15日	平成24年度名古屋大学主任研修	名古屋大学職員の主任として職場における役割を自覚し、掛長への準備段階として身につけておくべき態度や意識、リーダーシップ発揮に必要な諸能力を養う。	30名
6月20日	組織学習論からみたFD・SD	教員、事務職員、学生などの多様な組織メンバーにとって、今後ともに目指すべき方向性は何で、実現にはどのようなことが求められるのか、組織学習論をふまえて意見交換を行う。	32名
6月20日	研究支援及び産学官連携関係業務について	リサーチ・アドミニストレーター及び産学官連携推進本部コーディネーターの業務、研究費不正使用防止及び安全保障輸出管理の内容を理解し、研究業務の円滑及び適切な処理を行う。	25名
6月21日	平成24年度名古屋大学パートタイム勤務職員等研修	パートタイム勤務職員（契約職員を含む）に対し、大学職員としての心構えを自覚させるとともに、業務遂行上必要な基礎知識、能力、態度等を養成する。	77名
6月25日	イノベーションと科学技術	専門家として自立する日に備えて、さまざまな場面で活用できる「トランスフェアラブル・スキル」の獲得を支援する。	14名
6月28日	第1回 TOEIC IP テスト	平成23年度末年齢が35歳以下の事務系及び施設系職員に対して TOEIC IP テストの受験機会を提供し、職員の英会話に対する自己研鑽を促す。	34名
6月29日	話す技法	専門家として自立する日に備えて、さまざまな場面で活用できる「トランスフェアラブル・スキル」の獲得を支援する。	21名
6月29日	平成24年度診療報酬改定を理解する－看護師の関与する項目を確実に算定につなげるために－	平成24年度診療報酬改定全体の概要を知るとともに看護関連の改定項目について内容を理解し、看護職員が得た知識を基に各部署において効果的に算定につなげることを目的とする。	84名

新任部局長等の紹介

●理事・事務局長

竹下 典行
(たけした のりゆき)



〈略歴〉
昭和55年4月 文部省大学局教職員養成課
昭和58年5月 外務省情報文化局文化第一課
昭和60年4月 文部省学術国際局国際学術課企画調査係長
昭和61年4月 富山県総務部学術国際課副主幹
昭和62年7月 富山県総務部県立大学創設準備室主幹
平成元年4月 富山県企画県民部婦人青少年課長
平成3年4月 文部省学術国際局研究機関課課長補佐
平成4年10月 文部省高等教育局企画課課長補佐
平成6年7月 文化庁文化財保護部伝統文化課文化財保護企画室長
平成8年7月 厚生省生活衛生局食品保健課新開発食品保健対策室長
平成10年7月 文部省生涯学習局青少年教育課長
平成12年4月 大阪外国語大学事務局長
平成13年7月 文部科学省初等中等教育局教職員課長
平成17年4月 文化庁文化部芸術文化課長
平成18年4月 文化庁長官官房政策課長
平成19年4月 政策研究大学院大学運営局長
平成21年8月 横浜国立大学理事・事務局長
平成24年8月 名古屋大学理事・事務局長

●文系事務部長

河本 達吾
(かわもと たつご)



〈略歴〉
昭和53年4月 名古屋大学入学主幹付
昭和56年4月 名古屋大学学生課
昭和62年5月 名古屋大学経理部主計課
平成3年5月 名古屋大学経理部主計課第二予算掛主任
平成4年5月 名古屋大学経理部主計課第一予算掛主任
平成5年10月 名古屋大学経理部主計課監査掛主任
平成6年4月 核融合科学研究所管理部会計課司計係長
平成9年4月 名古屋大学医学部経理掛長
平成12年4月 名古屋大学経理部主計課第二予算掛長
平成13年4月 名古屋大学経理部主計課第一予算掛長
平成15年4月 名古屋大学総務部総務課秘書掛長
平成16年4月 名古屋大学総務企画部人事務課課長補佐
平成18年4月 名古屋大学財務部財務課課長補佐
平成20年7月 名古屋大学国際部国際学生交流課長
平成22年4月 名古屋大学文系経理課長
平成23年4月 名古屋大学理学部・理学研究科・多元数理科学研究科事務長
平成24年8月 名古屋大学文系事務部長

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成24年6月16日～7月15日]

記事	月日	新聞等名
1 昭和時代：本学の大学紛争の原因が取り上げられる	6.16 (土)	読売
2 第44回全日本大学駅伝東海地区選考会開催：本学陸上部は2位となり全日本出場を決めた	6.16 (土) 6.18 (月)	朝日 (朝刊)
3 濱口総長は地域防災の担い手を育成する研修会「防災・減災カレッジ」キックオフイベントに出席	6.17 (日)	読売
4 市民公開講座「認知症セミナー」開催：15日 松尾清一医学部附属病院長が開会の挨拶、葛谷雅文医学系研究科教授が特別講演	6.17 (日) 6.25 (月)	読売 読売
5 現代日本読百科 (634)：「満開に花を咲かせる」町田 健文学研究科教授	6.18 (月)	中日 (朝刊)
6 大場裕一生命農学研究科助教は岡崎市ホテル学校講演会「ホテルはなぜ光る？」で講師を務める	6.18 (月)	中日 (朝刊)
7 現代日本読百科 (636)：「キャリアを重ねる」町田 健文学研究科教授	6.20 (水)	中日 (朝刊)
8 伊丹健一郎理学研究科教授の研究「グリーン化学アプローチによる革新的芳香環連結マテリアル創製」は第4回ドイツ・イノベーション・アワード「ゴットフリート・ワグネル賞2012」優秀賞を受賞	6.20 (水)	日刊工業
9 千種生涯学習センター公開講座開催：7月3日「放射線とその人体に与える影響」と題し熊谷 純工学研究科准教授が講演	6.20 (水)	中日 (朝刊)
10 日本古生物学会・環境学研究科・博物館普及講演会「生きている化石と古生物学」開催：7月1日 大路樹生博物館教授が講演	6.20 (水) 6.29 (金)	中日 (朝刊) 読売
11 中日文化センター特別企画：古事記編纂1300年「大須観音の秘密を探る」稲葉伸道文学研究科教授が講師を務める	6.20 (水)	中日 (夕刊)
12 紙つぶて：ロマンチックな時代 篠原久典理学研究科長	6.21 (木)	中日 (夕刊)
13 阿部泰郎文学研究科教授は栄中日文化センター特別企画「大須観音の秘密を探る」について語る	6.21 (木)	中日 (夕刊)
14 小嶋哲人医学系研究科教授らの研究グループは遺伝性血栓症の原因となる遺伝子を特定	6.21 (木)	中日 (朝刊) 他3社
15 現代日本読百科 (637)：「真相は永遠の彼方に消えた」町田 健文学研究科教授	6.21 (木)	中日 (朝刊)
16 博物館特別展関連講演会「創業者・三島海雲の軌跡～『カルピス』の秘密」カルピス社における発酵乳・乳酸菌研究について」開催：7月4日	6.21 (木) 6.25 (月) 6.29 (金) 6.30 (土)	中日 (朝刊) 中日 (夕刊) 毎日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
17 近藤康満さん経済学部3年生はジュニア世界オリエンテーリング選手権大会の出場に向け「これまで培った力を出し切る」と誓う	6.22 (金)	中日 (朝刊)
18 生物機能開発利用研究センター公開実験講座2012「バイオサイエンス・バイオテクノロジーを体験する」開催：8月4日、5日	6.22 (金)	中日 (朝刊)
19 近くて遠い国ロシア開催：23日 プラーエヴァ・マリアさん本学大学院生が文化や生活習慣の違いを語る	6.22 (金)	毎日 (朝刊)
20 第81回防災アカデミー「心理学で危機に備える」開催：7月20日 窪田由紀教育発達科学研究科教授が講演	6.22 (金)	読売
21 林 良嗣環境学研究科教授が平成24年度環境保全功労者等環境大臣表彰 地域環境保全功労者に選ばれる	6.22 (金)	日経 (朝刊) 中日 (朝刊)
22 減災連携研究センターの設立記念式典が開かれ濱口総長が「東日本大震災の教訓を生かせるのか、われわれは今問われている」と訴え、福和伸夫減災連携研究センター長は「この地方で近い将来に発生が予測される大規模な地震はまさに国難となる」とあいさつする	6.23 (土)	中日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成24年6月16日～7月15日]

記事	月日	新聞等名
23 水田 洋本学名誉教授の「アダム・スミス法学講義 1762～1763」が紹介され「いろんな角度から研究する対象になってほしい」と話す	6.23 (土)	朝日 (夕刊)
24 予防早期医療創成センターと富士通研究所ほかは患者を「クラウド」で管理する共同研究に着手することを発表	6.23 (土) 6.28 (木)	日経 (朝刊) 日経 (朝刊)
25 足立 守博物館特任教授は「アンモナイトのレプリカを作ろう」で講師を務める	6.23 (土)	千種ホームニュース
26 サイエンスカフェ「迫り来る世界の食糧危機ー植物科学を利用した解決へのチャレンジ」開催:7月4日 芦荻基行 生物機能開発利用研究センター教授が講師を務める	6.23 (土)	中日 (朝刊)
27 英文学会サマーセミナー開催:7月6日	6.23 (土)	中日 (朝刊)
28 この人:国立がん研究センター理事長堀田知光氏本学卒業生	6.23 (土)	中日 (朝刊)
29 福和伸夫減災連携研究センター長は特定非営利法人レスキューストックヤードの設立10周年記念シンポジウムで南海トラフの巨大地震想定について解説	6.24 (日) 6.25 (月)	中日 (朝刊) 読売
30 第94回全国高校野球選手権愛知大会開催:7日～ 教育学部附属高等学校はAゾーンで出場	6.24 (日) 7. 5 (木)	毎日 (朝刊) 読売
31 丹波竜の下あごの骨の化石が発見され、29日から本学で開催の日本古生物学会で報告	6.24 (日)	朝日 (朝刊) 日経 (朝刊)
32 現代日本誤百科 (638):11着に惨敗 町田 健文学研究科教授	6.25 (月)	中日 (朝刊)
33 海外メディア:春名幹男国際言語文化研究科客員教授がアメリカ政府の情報戦について解説	6.25 (月)	読売
34 医学部附属病院に開設予定のドナルド・マクドナルド・ハウスなごやの建設費を募るためチャリティーコンサートが開かれる	6.25 (月)	朝日 (朝刊)
35 沢田昭二本学名誉教授は長崎の被爆体験者が敗訴した判決について「予想もできないひどい判決」と話す	6.26 (火)	中日 (朝刊)
36 独立行政法人情報通信研究機構は本学や大阪大学などを複数のコンピュータでつなぎ、ビッグデータを解析する研究基盤として活用する技術を開発	6.26 (火)	日経 (朝刊)
37 国家公務員総合職試験 出身大学別合格者数:本学は19名	6.26 (火)	中日 (朝刊)
38 藤田保健衛生大学教授堀口正之氏本学卒業生が糖尿病網膜症について解説	6.26 (火)	朝日 (朝刊)
39 現代日本誤百科 (639):彼女の「静養は必然」町田 健文学研究科教授	6.27 (水)	中日 (朝刊)
40 下村 脩本学特別教授などが豊橋市自然史博物館企画展「ノーベル賞を受賞した日本の科学者」で紹介される	6.27 (水)	読売
41 三重県立美術館「蕭白ショック!! 曾我蕭白と京の画家たち」展に本学などの学生が授業・研究の一環として多く訪れている	6.27 (水)	読売
42 名古屋イングリッシュフォーラム英語講演会開催:30日 ガッセン・ラービィさん本学大学院生がチュニジアの現状を話す	6.27 (水)	中日 (朝刊)
43 教えて!ドクター:けやき内科院長加藤景介氏本学卒業生がじん肺について解説	6.27 (水)	中日 (朝刊)
44 農学国際教育協力研究センターが2000年から始めたカンボジアの農業教育支援が紹介	6.27 (水)	中日 (夕刊)
45 濱口総長はベトナム政府が憲法調査団を本学に派遣し鮎京理事らと意見交換をすると発表	6.27 (水) 6.28 (木)	日経 (夕刊) 読売 中日 (朝刊)
46 濱口総長は公立大学協会の総会で「留学生を引きつける特色があるはず」として自動車工学プログラムを紹介	6.28 (木)	日経 (朝刊)
47 現代日本誤百科 (640):失点を許す 町田 健文学研究科教授	6.28 (木)	中日 (朝刊)
48 室原豊明医学系研究科教授らのグループはiPS細胞の再生力に年齢差がないことを突き止めた	6.28 (木)	日経 (朝刊) 読売 中日 (朝刊)
49 ニュースがわからん!: 榎野正人医学系研究科教授は胆管がんの手術について解説	6.28 (木)	朝日 (朝刊)
50 名古屋大学星の会講演会開催:7月1日 山本宏昭理学研究科助教が「NANTEN2 宇宙創生の謎に迫る」をテーマに講演	6.28 (木)	中日 (朝刊)
51 中部の環境を考える会 第31回総会記念の集い開催:7月1日 福島和彦生命農学研究科教授が「今、何故バイオマスなのか」と題して基調講演	6.28 (木)	中日 (朝刊)
52 紙つぶて:哲学の道 篠原久典理学研究科長	6.28 (木)	中日 (夕刊)
53 室原豊明医学系研究科教授らのグループはiPS細胞の再生力に年齢差がないことを突き止めた	6.28 (木) 6.29 (金)	毎日 (夕刊) 朝日 (朝刊)
54 本学のフェイスブック公式ページが紹介される	6.29 (金)	中日 (朝刊)
55 名大カフェ“Science, and Me” 第24回「迫り来る世界の食糧危機ー植物科学を利用した解決へのチャレンジ」開催:7月4日 芦荻基行生物機能開発利用研究センター教授が講演	6.29 (金) 6.30 (土)	毎日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
56 吉田 茂医学部附属病院准教授は富士通と共同で高性能なセンサーを使ったおねしょの研究をはじめ	6.30 (土)	朝日 (朝刊)
57 本学の応援団の存続の危機が紹介される	6.30 (土)	中日 (朝刊)
58 大関鶴竜閣が博物館モンゴル展を見学し、濱口総長や益川敏英本学特別教授、モンゴルからの留学生らと交流した	6.30 (土) 7. 4 (水) 7.12 (木)	中日 (朝刊) 中日スポーツ 中日 (夕刊)
59 上田 実医学系研究科教授らの研究チームは人間の骨髄から採取した幹細胞の培養液を使ってラットの頭蓋骨を再生することに成功	7. 1 (日)	中日 (朝刊) 他4社
60 病院の実力「医療安全」:長尾能雅医療の質・安全管理部教授が部局を超えてのリスク対処について語る	7. 1 (日)	読売
61 毎日新聞「秋入学に関するアンケート」本学は理想的な入学時期として春秋併存と回答	7. 1 (日)	毎日 (朝刊)
62 現代日本誤百科 (641):「裏をついた」町田 健文学研究科教授	7. 2. (月)	中日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成24年6月16日～7月15日]

記事	月日	新聞等名
63 現代日本誤百科 (642):「ゲストがお越しいただいて」おります 町田 健文学研究科教授	7. 3 (火)	中日 (朝刊)
64 本学などの研究グループが取り組む放射線を可視化できるカメラの研究が紹介される	7. 3 (火)	日経 (朝刊)
65 教えて！ドクター：伊藤整形・内科あいち腰痛オペクリニック院長伊藤不二夫氏本学卒業生	7. 3 (火)	中日 (朝刊)
66 高年大学鯉城学園納涼健康講座開催：8月7日 佐藤祐造本学名誉教授が「老化防止に役立つ運動－生涯現役を目指す－」をテーマに講演	7. 3 (火)	中日 (朝刊)
67 平野瑛莉奈さんなど本学学生が大学生活や受験勉強について話す	7. 3 (火)	朝日 (朝刊)
68 本学などの研究グループは2014年に打ち上げる次期天文衛星「ASTRO-H」に搭載する世界最高感度のエックス線望遠鏡を完成。國枝秀世理学研究科教授は「超新星爆発やブラックホールなど、超高エネルギーの世界がみえるだろう」と期待する	7. 3 (火)	朝日 (夕刊)
69 現代日本誤百科 (643):「幅4メートルにかけて」崩れた 町田 健文学研究科教授	7. 4 (水)	中日 (朝刊)
70 研究現場発：鳥本 司工学研究科教授がナノ粒子について解説する	7. 4 (水)	中部経済
71 本学などが参加する欧州合同原子核研究所 (CERN) の実験チームがヒッグス粒子とみられる粒子を発見	7. 5 (木)	日経 (朝刊) 他5社
72 現代日本誤百科 (644):「高速道路を建て替える」町田 健文学研究科教授	7. 5 (木)	中日 (朝刊)
73 服部保志さん本学4年生は「第1回アフリカ総選挙」の実行委員長を務める	7. 5 (木)	中日 (朝刊)
74 「大学の實力」調査：本学の情報や自己評価が紹介される	7. 5 (木)	読売
75 山本朗仁医学系研究科准教授と名古屋市のグループは新生児の低酸素脳症を歯髄幹細胞が抑制することを発見	7. 6 (金)	中日 (朝刊)
76 最新素粒子講座開催：28日～ 杉山 直理学系研究科教授ほかが講義	7. 6 (金)	読売
77 博物館特別展関連講演会「モンゴルの詩人たち－現代に息づくモンゴル詩の伝統と文化－」開催：21日	7. 6 (金)	中日 (朝刊)
78 留学生センターオープンフォーラム「社会参加としての在日朝鮮人文学－磯谷治良とその文学サークルの活動を通して」開催：22日	7. 6 (金) 7.12 (木)	中日 (朝刊) 中日 (夕刊)
79 訃報：板倉達文本学名誉教授	7. 6 (金)	朝日 (朝刊) 他2社
80 本学にベトナムの憲法調査団が訪れ濱口総長や鮎京理事らと意見交換した	7. 6 (金) 7. 7 (土)	毎日 (夕刊) 中日 (朝刊) 他2社
81 生源寺眞一生命農学研究科教授が協同組合について解説	7. 7 (土)	中日 (朝刊)
82 なごや生物多様性センター講座：8月25日「身近な葉っぱの観察から生物多様性の世界へ」西田佐知子博物館准教授	7. 7 (土)	中日 Risa
83 2012国際協同組合年・記念シンポジウム in 岐阜・愛知・三重開催：7日 生源寺眞一生命農学研究科教授が講演	7. 8 (日)	中日 (朝刊)
84 草野完也太陽地球環境研究所教授が最近の太陽の様子について解説	7. 8 (日)	中日 (朝刊)
85 医学部附属病院は韓国ソウル大学病院と病院職員を相互に派遣する協定を締結	7.10 (火)	中日 (朝刊)
86 訃報：赤澤 堯本学名誉教授	7.10 (火)	中日 (朝刊) 他2社
87 小林 誠本学特別教授が超対称性理論について解説	7.10 (火)	日経 (朝刊)
88 現代日本誤百科 (645):「築50年がたった」施設 町田 健文学研究科教授	7.10 (火)	中日 (朝刊)
89 ひと：水田 洋本学名誉教授	7.10 (火)	毎日 (朝刊)
90 第25回 spcafé「天体ショーと人類」開催：19日 渡邊誠一郎環境学研究科教授が講演	7.10 (火)	中日 (朝刊)
91 古川元久国家戦略担当大臣は医学部附属病院を視察し濱口総長と意見交換した	7.11 (水)	中日 (朝刊)
92 医学部附属病院は韓国ソウル大学病院と協定を結ぶ	7.11 (水)	毎日 (朝刊) 読売
93 現代日本誤百科 (646):「日本国籍に戻る」町田 健文学研究科教授	7.11 (水)	中日 (朝刊)
94 博物館特別展関連講演会「モンゴルの馬 馬頭琴伝説からみた馬の隠喩」開催：28日	7.11 (水)	中日 (朝刊)
95 大学の實力「学部別就職状況 国立」：本学の就職情報が紹介される	7.11 (水)	読売
96 現代日本誤百科 (647):「視界が見えなくなった」町田 健文学研究科教授	7.12 (木)	中日 (朝刊)
97 東海総合通信局は本学などが打ち上げる予定の「ChubuSat-1」に搭載するアマチュア無線局に予備免許を与えたと発表	7.12 (木) 7.13 (金)	日経 (朝刊) 中日 (朝刊)
98 2013年度の入試要項を発表	7.12 (木)	中日 (朝刊)
99 みどり区文化のつどい 平和美術展開催：21日 沢田昭二本学名誉教授が内部被曝について講演	7.12 (木)	読売
100 LINKED 07：松尾清一医学部附属病院院長が内科総合医の必要性や医療と介護の協議組織について語る	7.12 (木)	中日 (夕刊)
101 本学の「トランスフォーマティブ生命分子研究拠点」は世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI フォーカス) 2012年度に応募	7.13 (金)	日刊工業
102 博物館コンサート「音楽で学ぶモンゴルの歴史」開催：14日	7.13 (金)	読売
103 高校生夏休み国際理解教育特別講座開催：23日 加藤延夫本学元総長、森島昭夫同名誉教授らが講義	7.13 (金)	中日 (朝刊)
104 訃報：生源寺治雄氏元名古屋工業研究所長 (喪主：生源寺眞一生命農学研究科教授)	7.14 (土)	中日 (朝刊)
105 生命農学研究科に次いで中部大学が愛知県農業総合試験場と協定を締結	7.14 (土)	中日 (朝刊)
106 あいち賢人：故桐原眞一氏旧愛知医科大学教授の胃鏡への取組みが紹介される	7.14 (土)	中日 (朝刊)
107 スーパーサイエンスハイスクール東海地区フェスタ2012開催：14日 教育学部附属高等学校が口頭発表の優秀賞を受賞	7.15 (日)	読売
108 親子で取り組むサマーセミナー in 名古屋大学2012開催：8月17日 町田 健文学研究科教授が講師を務める	7.15 (日)	日経 (朝刊)

第8回名古屋大学ホームカミングデイ

地域と大学で考える「世界のなかの日本、日本のなかの世界」 を10月20日(土)に開催

名古屋大学ホームカミングデイは、卒業生・修了生や元教職員が集い、また、在校生のご家族の方々、地域の皆様に、本学の教育・研究活動の一端に触れていただき、本学の理念等を理解していただく重要な行事として位置づけられ、毎年10月の第3土曜日に開催されています。

現在、大学改革の期待に応えるため、本学は「名古屋大学から Nagoya University へ」を目標に掲げ、国際化を図っているところです。そのため、今年度はホームカミングデイのメインテーマを、『地域と大学で考える「世界のなかの日本、日本のなかの世界」』としました。本学の優れた教育・研究活動やその成果等を通じて、国境を越えて人や物が行き交う時代、グローバル化の時代について、考えていきます。

皆様に有意義で楽しい一日をお過ごしいただけるよう、全力を挙げて準備を進めていますので、ご家族、ご友人もお誘い合わせの上、是非、第8回名古屋大学ホームカミングデイにお越しくださいますようお願い申し上げます。



イベント一覧

【豊田講堂】

「名古屋大学の集い」

(名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサート等)

本のリユース市、農産物の販売

生協の名大グッズ等の販売 等

【シンポジオン】

記念講演「グローバル化時代の大学と学生に求めるもの

～名古屋大学から Nagoya University へ」

アジア諸国の物産品展示・販売

法学研究科留学生との集い 等

【野依記念学術交流館】

「名大東山キャンパス雑木林の生物多様性を

観察しよう！」(東山キャンパス雑木林の散策及び展示)

あかりんご隊科学実験「3Dの絵を描こう☆」

(名古屋大学理系女子コミュニティによる科学実験)

環境医学研究所市民公開講座

「糖尿病と肥満—研究と治療の最前線」

【附属図書館】

時を超える贈り物 ～貴重書コレクション～

図書館スタンプラリー、オープンライブラリー

【博物館】

企画展「西條八東と日本陸水学の流れ」

特別講演会「西條八東さんとお父上の西條八十さん」

石の彫刻による Muse therapy、ミクロの探検隊

観測知にふれるハンズオン・ギャラリー

野外観察園公開

【陸上競技場】

名古屋グランパススクールコーチによる

親子ふれあいサッカー教室

【ツアー企画】

豊田講堂見学ツアー

名大ウォーキングツアー

超高压電子顕微鏡施設見学ツアー 等

お問い合わせ先

総務部総務課 TEL : 052-747-6558, 6559 FAX : 052-789-2019 E-mail : home-coming@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

詳細につきましては、ホームページ (<http://www.nagoya-u.ac.jp/home-coming-day/>) をご覧ください。

概要パンフレット「名古屋大学プロフィール2012」を刊行

本学では、このたび概要パンフレット「名古屋大学プロフィール2012」を刊行しました。

本誌は、本体編と資料編（各年1回発行）の2冊で構成されています。本体編は、「名古屋大学の強みを発信する」をコンセプトに制作しており、今年度は「名古屋大学の地域貢

献」をテーマとし、「原点に、地域」と題して、インタビュー形式でわかりやすく本学を紹介しています。資料編は、数字等のデータにより、本学の取り組みを客観的に紹介しています。

ご入り用の方は、広報プラザで入手できます。

また、高校生向けパンフレット「GUIDE TO NAGOYA UNIVERSITY 2013」（年1回発行）も刊行しました。

ご入り用の方は、入試課で入手できます。



イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等	内容	
<p>3月17日(土)～8月31日(金) 場 所：博物館展示室 時 間：10:00～16:00 休 館 日：日・月曜日 入 場 料：無料</p> <p>[問い合わせ先] 博物館事務室 052-789-5767</p>	<p>第16回博物館特別展 「大モンゴル展」</p>	
<p>4月5日(木)～8月31日(金) 場 所：野外観察園展示室 時 間：10:00～16:00 休 館 日：土・日曜日、祝日 入 場 料：無料</p> <p>[問い合わせ先] 博物館事務室 052-789-5767</p>	<p>博物館サテライト展示 「徒然の写真展－驚きのワンダーランド モンゴル－」</p>	

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

8月16日(木)～10月11日(木)

(期間内の火・木曜日)

場 所：経済学部 1 階第 2 講義室

時 間：18:00～19:30

対 象：一般

参 加 費：9,200円 (全15回)

平成24年度名古屋大学公開講座

テ ー マ：「危機に立ち向かう英知—解決への展望—」



[問い合わせ先]

研究協力部社会連携課 052-789-5969

8月17日(金)～25日(土)

場 所：博物館展示室

時 間：10:00～16:30

休 館 日：日・月曜日

入 場 料：無料

博物館実験展示

「メディアアート展」

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

8月18日(土)、19日(日)

場 所：年代測定総合研究センター

時 間：10:00～17:00 (8/18)、

9:00～16:00 (8/19)

定 員：20名

対 象：小学生5年生以上、中学生

参 加 費：無料 (保険代必要)

たたら製鉄体験学習

内 容：古代における製鉄の復元実験の体験



[問い合わせ先]

年代測定総合研究センター事務室

052-789-2579

8月21日(火)

場 所：ジュンク堂書店ロフト名古屋店
7階ブックサロン (名古屋市中区)

時 間：18:30～20:00

対 象：中学生以上、一般

参 加 費：無料

あいちサイエンスコミュニケーション・セミナー第3回

講演題目：「国際航空宇宙ショーが愛知県にやってくる！」

講 演 者：宮 修一氏 (一般社団法人日本航空宇宙工業会国際部長)

[問い合わせ先]

産学官連携推進本部

あいちサイエンスフェスティバル

事務局 052-747-6527

8月23日(木)

場 所：カフェフロンテ

時 間：18:00～19:30

参 加 費：無料

(会場にてドリンクの注文が必要)

第15回げんさいカフェ

— Gen Science Café —

講演題目：「忘れられた“栄村大震災”を考える」

講 演 者：曾根好徳 (減災連携研究センター寄附研究部門教授)

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

8月24日(金)

場 所：東山動植物園植物会館研究室
 時 間：13:00～16:00
 定 員：20組
 対 象：小学校3年生から6年生と
 その保護者
 参 加 費：無料（保護者は入園料500円必要）

東山植物園主催

キッズ ボタニカル・ラボ

講 師：瀬上紹嗣（生命農学研究科博士研究員）

[問い合わせ先]

リサーチ・アドミニストレーション室
 研究員 戸次真一郎 052-747-6791



8月25日(土)、26日(日)

場 所：博物館 (8/25)、
 名古屋駅周辺・栄地区 (8/26)
 時 間：13:30～16:30 (8/25)、
 9:00～15:00 (8/26)
 定 員：30名
 対 象：小学3年生から中学3年生とその
 保護者（中学生以上は個人参加可）
 参 加 費：50円（保険代）

名古屋市科学館共催事業

第2回地球教室

テ ー マ：「ナゴヤで化石をさがそう！」

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767



8月28日(火)

場 所：情報基盤センター
 時 間：13:00～14:30
 定 員：40名
 対 象：一般
 参 加 費：無料

平成24年度

第5回情報連携統括本部公開講演会・研究会

講演題目：「京都大学における ICT マネジメントの体制作りと
 今後の実行計画について（仮題）」

講 演 者：梶田将司氏（京都大学教授）

[問い合わせ先]

情報推進部情報推進課総務掛
 052-789-4368

8月30日(木)

場 所：環境総合館 1階レクチャーホール
 時 間：18:00～19:30
 参 加 費：無料

第82回防災アカデミー

講演題目：「5ヶ月間に及ぶ震災被災地への医療支援でみえたこと」

講 演 者：稲田真治氏（名古屋第二赤十字病院救急科部長）

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

8月31日(金)

場 所：豊田講堂、
 シンポジオンホール、他
 時 間：10:00～17:00
 対 象：一般
 参 加 費：無料

テクノ・フェア名大2012

テ ー マ：「未来を明日に近づける技術」

内 容：基調講演、ブース展示、ミニ講演、研究室見学

講演題目：「マイクロ・ナノロボットシステムへの招待
 —マルチスケールロボットへのいざない—」

講 演 者：福田敏男（工学研究科教授）

講演題目：「未来をつくるプラズマ」

講 演 者：堀 勝（工学研究科教授）

[問い合わせ先]

工学部・工学研究科
 総務課社会連携室 052-789-5458



9月7日(金)

[問い合わせ先]

産学官連携推進本部国際連携部
 特任教授 阿部正廣 052-788-6147

ノースカロライナ州立大学との産学連携協定延長に係る調印式

内 容：2007年に調印された同協定の延長（5年間）を行うため、濱口総長がノース
 カロライナ州立大を訪問し、同大学 Woodson 学長と調印式を実施

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

9月11日(火)～11月10日(土)

場 所：博物館展示室
時 間：10:00～16:00
休 館 日：日・月曜日
入 場 料：無料

第24回博物館企画展 「西條八束と日本陸水学の流れ」

[関連講演会]

9月17日(月) (臨時開館)

場 所：博物館講義室
時 間：13:00～16:00

講演題目：「西條八束と日本陸水学の流れ」
講 演 者：寺井久慈氏 (博物館研究協力者)
講演題目：「水面下の現象に魅せられた西條先生の横顔」
講 演 者：中本信忠氏 (信州大学名誉教授)
参 加 費：無料



[問い合わせ先]

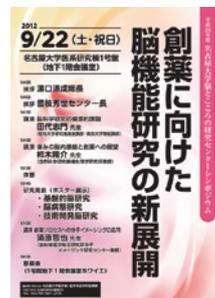
博物館事務室 052-789-5767

9月22日(土)

場 所：医学部医系研究棟 1号館
地下1階大会議室
時 間：14:00～17:30
参 加 費：無料

脳とこころの研究センター シンポジウム

講 演 者：田代志門氏 (昭和大学講師)、
柿木隆介氏 (自然科学研究機構生理学研究所教授)、
須原哲也氏 (独立行政法人放射線医学総合研究所グループリーダー)



[問い合わせ先]

医学部・医学系研究科総務課
052-744-1901

10月4日(木)

Biomarker / Molecular Therapeutics Roundtable

内 容：今年で3回目となる国際産学連携拠点 (NU Tech) が米国ノースカロライナ州で開催する本学の優れたシーズ技術の発表会。地元の大学と共催

[問い合わせ先]

産学官連携推進本部国際連携部
特任教授 阿部正廣 052-788-6147

10月6日(土)

場 所：野依記念学術交流館
時 間：13:30～17:30
参 加 費：無料

日本熱帯農業学会第112回講演会 公開シンポジウム

テ ー マ：「アフリカとイネ その歴史と現在そして展望」
講 演 者：田中耕司氏 (京都大学学術研究支援室長)、
菊池真夫氏 (千葉大学教授)、
窪田博之氏 (独立行政法人国際協力機構農村開発部審議役)、他

[問い合わせ先]

農学国際教育協力研究センター
教授 浅沼修一 052-789-4232

10月27日(土)

場 所：生命農学研究科附属フィールド
科学教育研究センター
東郷フィールド農業館
時 間：14:00～16:00
参 加 費：無料

2012年度第2回農場講演会

講 演 者：阿部秀樹 (生命農学研究科准教授)

[問い合わせ先]

生命農学研究科
附属フィールド科学教育研究センター
東郷フィールド事務室 0561-37-0200

名大トピックス No.231 平成24年8月16日発行

編集・発行／名古屋大学広報室

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。

名古屋市千種区不老町 (〒464-8601)

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

表紙

教育学部中庭で語らいながら
学ぶ教育発達科学研究科の
学生
(平成24年7月13日)



名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ
(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>) でもご覧いただけます。

124 学部の誕生と草創期② — 法学部 —

1946(昭和21)年1月、戦前から総合大学の実現に情熱を燃やしてきた田村春吉が第2代総長に就任すると、地元政財界の強い後押しもあって、名古屋帝国大学(1947年10月から名古屋大学)に文系学部などを設置し、名実ともに総合大学としようという気運が盛り上がりました。

敗戦直後の厳しい財政状況のなか、新学部を設置する際の大きな課題は敷地と校舎の確保でした。名大は、早くも1946年3月には旧陸軍歩兵第六連隊跡地とその兵舎(名古屋城内)の利用を申請しています(当初は寄宿舎用)。占領軍による利用が優先され、なかなか実現しませんでした。47年11月ようやく決定を見ました。

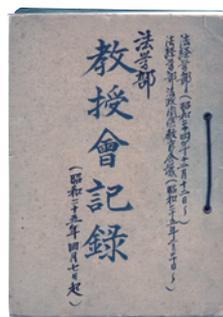
名大は、1946年から文系では法・文・経済の3学部の設置を計画し、47年10月の段階でもその方針でした。しかし、48年3月に文部省から示された文系学部設置案は、法文学部1学部のみというものでした。その後の交渉の末、文・法経の2学部の設置が認められましたが、それらに充てる

予算は1学部案と変わらず、その予算を二分する形で2学部を設置することになったのです。

こうして法学部は、まずは法経学部の一部(法律学科と政治学科)として、1948年9月14日に誕生しました。新学部の設置については、学内の新学部創設委員会で審議されましたが、当時の名大には法学を専門とする教官がいなかったため、学外から委員が招かれました。そのうち愛知大学教授の戸沢鉄彦と松坂佐一は、そのまま法経学部の教官に就任しています。

授業は10月18日から始まりましたが、法律学科と政治学科の教官は戸沢と松坂だけで、しかも非常勤でした。講義は月曜と火曜のみ、あとは自習で、不足する単位は他の非常勤講師による集中講義で補ったそうです。事務職員も、本来の半分の予算では確保が大変でした。

それでも、1949年度からは何とか態勢が整い、50年度には当初の計画通り、法学部の独立が実現したのです。



1	2	3
4	5	

- 1 左から法学部の研究棟、講義棟、事務棟(名城キャンパス)。法経学部時代は、法律学科と政治学科が名城、経済学科と経営学科が桜山(旧名古屋高等商業学校の敷地と校舎)にあった。
- 2 第1回卒業生(1951年)。第1回は全て旧制大学としての入学のため、3年(実際は2年半)で卒業した。
- 3 授業風景(1956年、名城キャンパス)。
- 4 法学部が独立した1950年当時の教官。最前列左から3番目が戸沢鉄彦教授(法学部長)、2番目が松坂佐一教授(のち第2代法学部長、名大総長)。
- 5 法学部創立期の教授会等の記録(大学文書資料室所蔵)。法経学部時代の教授会記録は、コピーが綴じこまれている(原本は経済学部の教授会記録にある)。